

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771000171		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホーム天神 1階		
所在地	福島県二本松市杉田町1丁目2-1		
自己評価作成日	平成25年6月1日	評価結果市町村受理日	平成25年9月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成25年7月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月地元のボランティアがホームに来所され、それを見学しに近隣の方がホームにきてくださる。地区の清掃活動の参加や、地元消防団との避難訓練など、地域とのつながりを大切にしている。明るい訪れやすいホームであることを職員全員で力を入れている。入居者様が安心、安全に暮らしていけるよう、ケアの向上の為に内部、外部の研修に積極的に参加している。また、職員は年度初めに今年度の目標を決めて達成に努力をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. ヒヤリハットレポートの要因を分析し、問題点を改善する仕組みが構築されており、事故予防に反映させている。
 2. 法人では職員の休暇等の取得を促す体制をとっており、就労環境の整備に努めている。また、全職員が年度毎に個人目標を設定し自己評価を行い、質の高いサービスの提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、スタッフ会議や自主勉強会の時に理念の再確認をし、入居者様本位の実践に繋げている。	事業所独自の理念を作り玄関に掲示し、利用者が明るく生き甲斐のある暮らしが出来るように全職員で実現に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入して地下道や道路の清掃活動に参加したり、敬老会や地域の行事に入居者様と参加したりしている。地元消防団との避難訓練を毎年実践している。	地域住民の一人として地域活動の情報を収集し、それらに積極的に参加している。また、地元人材育成の貢献として事業所の実践経験等を活かした受け入れ研修を実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々をホームの行事に招き一緒に参加して頂く事で認知症の理解、協力を頂けるようにしている。毎年、地元の介護専門学校での研修生を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的な会議では行事や研修の報告や事故の報告など行い委員からの経験を活かした意見を受け入れ運営に活かされている。	運営推進会議は定期的に開催されている。入居家族代表、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、地域代表等が参加している。推進会議では積極的な提案、意見が出されており、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターの職員が運営推進会議に出席しており、ホームの空き情報や待機者の情報など双方の意見を交換している。また、電話での空き状況の確認などが行われている。	事業所の現状や介護サービスの課題等については市の担当者との情報交換をし、共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外部の身体拘束の研修には必ず参加し受けた職員は伝達講習をしている。常に全職員一体となり拘束しないケアを実践し、入居者様の行動に寄り添う介護に力を入れている。	身体拘束をしないケアの実践に向けて、職員の勉強会を実施している。職員は、利用者ごとの対応の中で身体拘束をしない介護を実践しており、日頃より、具体的な行為を確認している。日中玄関の施錠はされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修、また伝達講習を通して虐待をしない事が当たり前と捉えている。職員のストレスなどで精神的な虐待にいたらないように、管理者や主任が聞き手となりサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の研修会や外部の研修会には必ず参加している。研修で得た知識を伝達講習を実施して伝えている。さらに必要な入居者様に活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族様に事前に連絡して充分時間を取って頂き説明をして不安が無いようしている。解約時には、ご家族様の意向に沿い対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の意見は日頃の関わりの中から見つけて、ケース会議で検討して要望に答えるようにしている。ご家族様が来所時には、話しやすい雰囲気作りに努めて意見を伺い運営に反映している。	家族等の意見・不満をサービスに反映させる仕組みとして意見箱を設け、退所後もご家族アンケートによる要望を収集し、家族の意見・要望に対する改善策を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議時には本社社員が出席し、職員全員が意見を述べる機会を設けている。スタッフ会議は見守り者以外は全員参加している。	定例のスタッフ会議や年度個人目標設定の中で職員から意見等出されており、運営に反映させている。日頃から職員間のコミュニケーションが図られる工夫がされ、どんな意見等も言いやすい雰囲気となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法や労働安全衛生法に則った労働条件を整えている。運営者は事業所や職員が向上心を持って働けるように定期的に評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や個人の能力、性格に合わせての研修の参加を進めている。また、自主的に余暇に研修に参加するなど、職員全体が向上心を持って仕事をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での研修会や法人の研修会に積極的に参加して交流に努めて、入居者様のサービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には入居者様の不安な気持ちに寄り添い傾聴を重ねて、自分の居場所が出来るように支援している。また他入居者様とも良い関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の決まった段階から、入居にあたり、要望や不安を聞いて、安心して頂けるように支援している。また職員も事前の情報を共有して良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されるご本人の意向を最優先としながらご家族の希望も受け止めつつ、生活歴なども踏まえて入居者様に合った支援を職員全員で考え支援に結びつけるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の一人ひとりの得意な事や、やって見たい事を見出し職員と共に行えるように努めている。今までの経験から昔の行事など教えて頂きながら行うこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームに訪れやすい雰囲気作りを常に職員は心がけている。また、ホームの行事などに声をかけて、一緒に楽しんで頂けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様の馴染みの店での嗜好品の買い物や季節の墓参りなど、行きたい場所への支援を職員は支援している。	ご家族の他、知人や友人の面会を継続できるように、来所しやすい雰囲気づくりを心がけている。なじみの場所を把握し、美容院の送迎も実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの入居者様の性格を把握して入居者様同士が穏やかに関わりあって生活出来るように日々、レクリエーションなどで楽しい時間が持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に訪れやすい体制を整えている。入居者様のご家族様や地域の方が相談に訪れる事があり地域の事業所としての役割を担っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様本人から多くの話を聞き、日々の関わりを強めて入居者様本位の介護を行っている。	利用者との日々の関わりの中で、思いや、意向、希望など把握し取り入れている。又、何気ない会話の中から真意を確認するようにしている。意志の疎通が困難な方にはご家族から情報を得るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様やご家族様に話を聞き生活歴や馴染みの暮らしの把握に努めている。入居後も定期的に聴き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で心身の状況など常に気遣い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と共に各入居者様の担当職員が定期的に聴き取りを行い、それをケース会議で話し合い介護計画を作成している。	ご家族からは訪問時のかかわり合いの中で、思いや意見を聞き介護計画に反映させている。利用者主体の暮らしを反映する介護計画書となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は出勤時に業務日誌に目を通して必要な情報を得ている。また日々の記録は支援を行った事や、気づきなどを記録して、ケース会議で共有化している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	市の介護給付券の申請や介護更新申請などご家族様の状況の合わせて支援している。また、リハビリテーションの利用など個々の入居者様に合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月地域のボランティアが来所し、日舞を舞ってくださる。それを見に地域の方が来てくださり入居者様と一緒に楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昨年よりご家族の了解を得て、往診体制をとっている。急変時などは、医師と連絡を取り、指示を仰ぐ事が出来るような体制になっている。	かかりつけ医が利用者全員を毎月往診している。緊急時のかかりつけ医による機敏な対応が適時なされている。受診結果はケース会議等で情報の共有を図っている。家族への報告は電話や文書で緊密に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、医療連携の看護師の訪問があり、健康管理をしている。訪問時には日々の変化など相談して、アドバイスを受け適切な対応が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には様子を見に行っている。医師面談時には、了解を得て同席させて頂き退院後の生活に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医には入所時に重度化、終末期についての家族の意向をお伝えしている。必要に応じて家族と、主治医との面談や、連絡を行っている。看取り移行前にはホーム看取り指針を説明し用意を頂くようにしている。	入居時に「重度化した場合における(看取り)指針」で説明を行っている。必要に応じて家族・事業所のかかりつけ医と面談を実施し「看取り介護についての同意書」を準備し、重症化や終末期に備えている。重度化した場合は家族の意向を尊重しながら関係者が緊密に連携し支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急救命講習を全員受講をして対応できるようにしている。また、内外の研修会に参加した職員が伝達講習を行い、急変時の対応などを確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練は4月に消防署と10月は地元消防団と行っている。毎月の自主訓練では通報訓練や、消防器具の取り扱い方法の勉強会をひらき、緊急時あわてず対処できるように訓練をおこなっている。	年2回の総合避難訓練を消防署の指導で実施している。毎月の自主訓練ではテーマを決め、地域の協力を得て実施し夜間を想定した訓練も行っている。また、職員は消防学校での消防体験学習に参加し、災害に対する意識の高揚に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を失わないよう、適切な言葉遣い態度など日々の対応について、職員が注意し合える関係が出来ている。	利用者個々を大切に尊厳を失わないような対応を心掛けている。特におむつの交換やトイレへの誘導時は、入居者の性格やニーズに合わせるよう言葉かけに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は日々、入居者様の思いを引き出しやすいよう職員は寄り添い、傾聴を行なっている。また、入居者様が自己決定できるように、何か行動を起こす際にはお声掛けし入居者様の返事を待つてから実行するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に入居者様に合わせた日課を過ごして頂けるように心がけ、入居者様本位を尊重している。入居者様のやりたい事を出来る限り暮らしの中で実現している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出の時には、入居者様の希望に沿ったおしゃれの支援をしている。洋服の買い物など一緒に楽しんでいる。馴染みの美容室の送迎を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	畑の野菜の収穫や食事の下ごしらえなど一緒に職員と行う事が生活の一部となっている入居者様がいる。台所からの音、匂いが家庭的な雰囲気を作っている。	献立に応じて、畑から旬の食材を収穫する係り、食材のカット係り、食材の買い出し係りなど特性に応じた役割分担をしながら食事の準備をしている。みんなで関わってできた食事に「おいしい」と言う言葉が極自然に聴かれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に合わせた食事時間や形態、量などの支援をしている。水分量や食事量の記録などでの健康管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに付き添い状態に応じた支援をしている。夜間は義歯を預かり薬品に漬けるなど常に清潔を気づかっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事、おやつの前には手洗いと共にさりげない誘導を行っている。夜間では定時の排泄誘導や、入居者様に合わせた誘導を行い気持ち良く休んで頂く工夫をしている。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを確認し誘導している。その結果布パンで自立排泄に改善された方もいる。また、歩行便座を導入した事による改善が図られている。排泄後の手洗いの工夫でリハビリに繋がり効果をあげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の豊富な副食を作る事に心がけている。10時のおやつには牛乳を提供している。又毎日体を動かし便秘予防に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、本人の希望や、体調に合わせている。週2～3回のペース声をかけている。一人毎にお湯の入れ替え、消毒を行っている。	入浴は各自の希望に沿って行い、1回毎にお湯の入れ替えと消毒を行っている。入浴を好まない方には個別にその方が一番喜ぶサービスを提供し、満足感を与えながら身体の清潔保持の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中より、夜間安眠出来るように入居者様の生活リズムや習慣、体調に合わせて支援を行っている。夜間眠れない入居者様には暖かい飲み物や、傾聴に努めて安心して頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の服薬の内容を職員全員が理解して介助にあたっている。服薬の変更時には業務日誌に記入し更に申し送りや、薬箱に紙を張るなどして、周知の徹底をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の出来る事を考慮した上で、役割を見つけお手伝いをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の支援や定期的な行事の外出を支援している。毎月、グループ法人が運営している温泉施設に行くなど、外出は入居者様と楽しみになっている。また、馴染みの美容室へ行くこともある。	日常的に食事の買い出しや、美容院に希望者を伴い外出支援を行っている。施設が運営する温泉へグループで出かける事もある。また、敷地内の畑の草取りなども日光浴を兼ね希望者が職員と行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から、お金を預かり事業所で管理をしている。入居者様との買い物に出掛ける時は持参して使う支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの贈り物があった時など電話を掛けたり、普段の連絡や電話の取り次ぎは常に支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、広く明るく清潔な雰囲気を保ち居心地のよい空間になるように常に職員は気を配っている。行事の写真や誕生会の写真も飾られている。入居者様は思い思いの場所で過ごしている。	玄関前に季節の花が植えられ交代で管理をしている。共用空間は広くて明るく、写真、七夕飾り等が掲示されている。また、入居者全員のペットとして豆柴犬を飼い、セラピードックの役割を果たしている。窓辺にはグリーンカーテンのゴーヤが日よけと食材として入居者に楽しみを供与している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞を読んだりテレビを見たり、自然と好みの場所に移動して過ごしている。移動を介助している入居者様には声を掛けて確認しながらお好きな場所で過ごされるように支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	馴染みの家具の配置など、入居者様の好み状態に合わせ支援をしている。各居室には湿温計を設置して季節、体調に合わせてコントロールして居心地良く過ごせる環境となっている。排泄時は必ず居室のトイレに誘導してプライバシーの配慮を行っている。居室の壁に入浴カレンダーを作り飾っている入居者様もいる。	居室の入口にのれんをかけ、物入れは自分で刺した、藍地に刺し子刺繍の布で飾るなど馴染みの調度品を配置した居室が造られ、一人の時間を自分らしく過ごせるように工夫されている。個々の部屋も、共用空間同様空調機器が設置され居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は入居者様の状態に応じて手摺を設置し、自らの力でできる限り移動できるように配慮している。		